

2027年卒の学生の最新動向を知るべく、キャリアタス就活・学生モニターを対象に、2月1日時点の状況を尋ねた。採用広報解禁前にもかかわらず内定率が4割を超えるなど、早期化の進行が顕著に認められる。活動状況のほか、3月の解禁を前にした心情など多岐にわたる項目を調査した。

1. 就活解禁1カ月前の不安

- 「希望する企業から内定をもらえるか」が最多 (70.7%)
- 選考への不安は、「面接」(53.7%)、「筆記試験」(31.2%)、「エントリーシート」(30.8%)の順

2. 現在の志望業界

- 志望業界が「明確に決まっている」50.6%、「なんとなく決まっている」35.9%
- 1位「インターネットサービス」、2位「銀行」、3位「情報処理・ソフトウェア」

3. インターンシップ等(※)の参加状況

- 参加経験者はモニター全体の95.1%
- 平均参加社数11.5社のうち、就職したいと思った企業は3.4社。参加企業の約3割

4. 2月1日時点の本選考受験状況と内定状況(※)

- 「本選考を受けた」77.0%。前年同期を3.7ポイント上回る。受験社数は平均5.3社
- 「内定を得た」46.6%で、前年同期(39.9%)を6.7ポイント上回る
- 就職先を決めて活動を終了したのは全体の8.2%。9割以上が就職活動継続
- 活動継続者の約7割が「新たな企業を探している」と回答(67.2%)

5. 就職先候補として判断するために知りたい情報

- 「福利厚生」「仕事内容」が6割超で多い。「勤務地」「初任給」など知りたい情報は多岐にわたる

6. 働き方についての考え

- 「1つの分野で専門性を高めたい」43.9%⇔「幅広い業務を経験したい」56.1%
- 「人よりも能力やセンスを評価されたい」59.4%⇔「まわりから浮かないようにしたい」40.6%

7. 地元就職の希望状況

- 地元就職希望者は、地元進学者の71.2%。地元外進学者(Uターン希望)は34.3%
- 地元/地元外進学者とも、地元就職したい理由は「地元が好き/暮らしやすい」がトップ

※「インターンシップ」に限定せず、オープン・カンパニー等も含めて尋ねた
※「内定」には、内々定を含む

調査概要

調査対象：2027年3月に卒業予定の大学3年生（理系は大学院修士課程1年生含む）
回答者数：1,000人（文系男子197人、文系女子446人、理系男子203人、理系女子154人）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2026年2月1日～6日
サンプリング：キャリアタス就活 学生モニター2027
調査実施：株式会社キャリアタス/キャリアタスリサーチ

1. 就活解禁 1 カ月前の不安

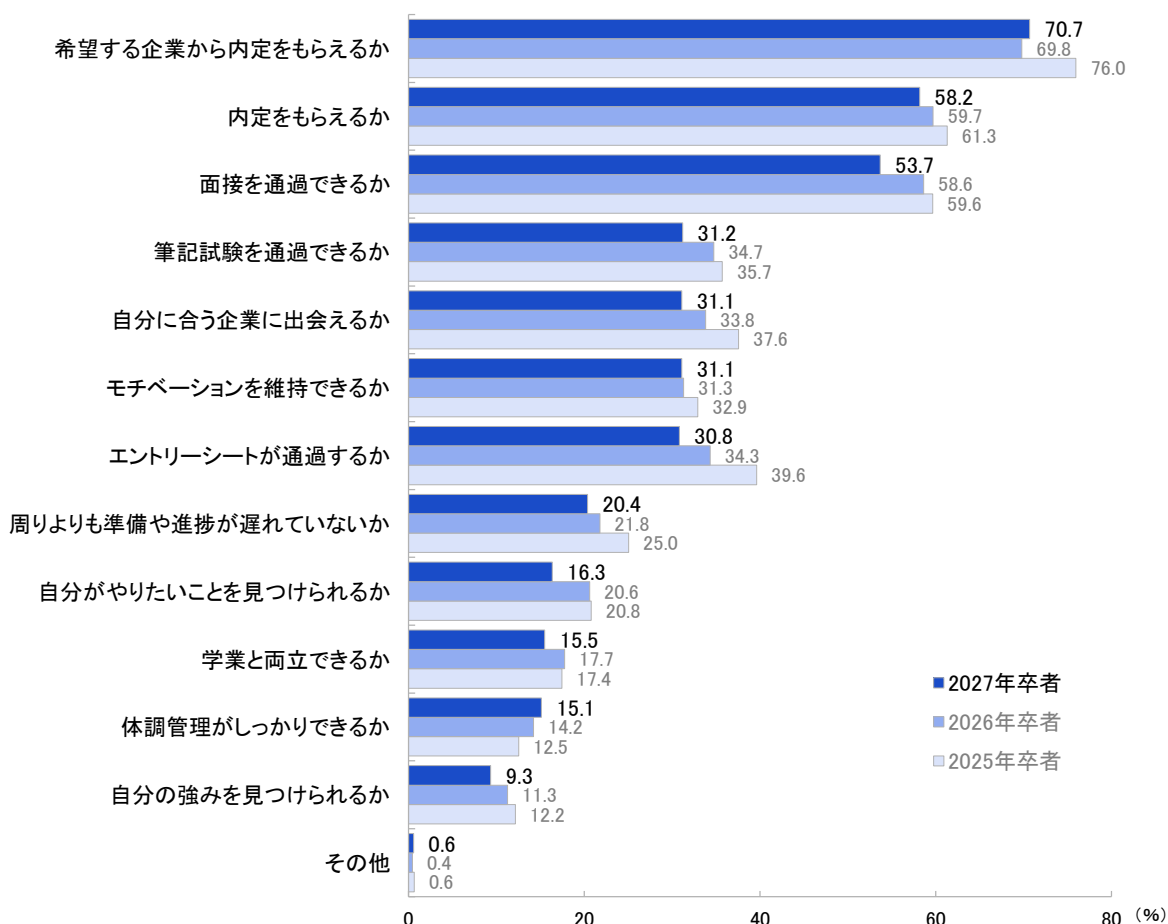
3 月の就職活動解禁を前にどのような不安を感じているかを尋ね、過去 2 年の結果と比較した。

最も多かったのは「希望する企業から内定をもらえるか」で、約 7 割が選んだ（70.7%）。次いで「内定をもらえるか」（58.2%）が続き、内定獲得への不安が今年も上位に並ぶ。但し、「内定をもらえるか」は年々ポイントが低下。2 月時点で内定を得ている学生が増え（内定率は 5 ページで詳述）、内定獲得自体への不安よりも、希望する会社の内定が取れるかどうかを不安に思う様子が見て取れる。

選考試験への不安に注目すると、面接（53.7%）、筆記試験（31.2%）、エントリーシート（30.8%）の順に多く、面接に苦手意識をもつ学生が少なくないようだ。

寄せられたコメントからは、様々な不安を抱えながら就職活動に臨んでいる様子がうかがえる。

<就活解禁 1 カ月前に感じている不安>



■就職活動への不安

○周りが内々定をもらい始めている中で、私はまだ持っておらず悶々と不安が募っている。また、面接練習をしているが、考えを言語化するのが苦手なため、苦戦している。 <理系男子>

○早期選考で落ちてしまって不安が大きくなった。 <文系女子>

○内定は出ているのですが、ここからさらに自分が行きたい会社から内定をもらえるかが不安。 <文系男子>

○第一志望の企業の面接が控えているので、本当に内定がとれるか不安です。また、本当にその企業でいいのかも正直迷っている。 <理系女子>

○周りに流されずに自分のペースを維持できるか。 <文系男子>

○自分に合う企業を見つけられるかが一番不安。3 月までに受けたい企業を絞ることができるのか。 <文系女子>

2. 現在の志望業界

志望業界の決定状況を尋ねたところ、「明確に決まっている」という学生は50.6%で、前年同期調査（48.6%）を上回り、過半数に達した。「なんとなく決まっている」（35.9%）を合わせると8割台後半に上る（計86.5%）。理系の方が決定している学生の割合が高く、理系男子は「明確に決まっている」という回答が6割を超えている。

次に、「なんとなく決まっている」と回答した学生も含め、志望業界のある学生に具体的な業界を尋ねた（40業界から選択）。全体の1位は「情報・インターネットサービス」（17.9%）で、「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」（15.6%）が3位に入り、IT人気が目立つ。特に理系男子において上位2位を占め、理系女子においても2割前後とポイントが高く、理系学生から多くの支持を集めている。

全体2位の「銀行」（17.4%）は文系男子において1位、文系女子の2位で、文系からの人気が特に高い。なお、文系女子の1位は「マスコミ」（19.6%）。

< 志望業界の決定状況 >

	全 体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	50.6	48.6	48.2	43.0	66.0	58.4
なんとなく決まっている	35.9	35.3	35.0	43.7	23.2	32.5
決まっていない	13.5	16.2	16.8	13.2	10.8	9.1

< 志望業界（上位 15 業界） >

	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1 情報・インターネットサービス ②	17.9	銀行 26.8	マスコミ 19.6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 30.9	水産・食品 25.0
2 銀行 ①	17.4	情報・インターネットサービス 15.2	銀行 18.9	情報・インターネットサービス 28.2	医薬品・医療関連・化粧品 22.9
3 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ③	15.6	官公庁・団体	官公庁・団体 15.2	電子・電機 25.4	素材・化学 20.7
4 官公庁・団体 ④	13.2	保険 14.6	情報・インターネットサービス 14.7	機械・プラントエンジニアリング 14.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 20.0
5 水産・食品 ⑤	12.9	建設・住宅・不動産 14.0	水産・食品 14.2	自動車・輸送用機器 13.3	情報・インターネットサービス 19.3
6 建設・住宅・不動産 ⑧	12.6	調査・コンサルタント 13.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 12.4	農業・林業・鉱業 12.7	建設・住宅・不動産 16.4
7 マスコミ ⑫	11.9	信用金庫・労働金庫・信用組合	エンターテインメント 11.1	建設・住宅・不動産 12.2	電子・電機 12.9
8 調査・コンサルタント ⑦	10.8	運輸・倉庫 12.2	建設・住宅・不動産 10.3	素材・化学	官公庁・団体 10.7
9 運輸・倉庫 ⑭	9.1	商社（総合）	調査・コンサルタント 9.8	精密機器・医療用機器 11.6	エネルギー
10 エンターテインメント ⑪	8.7	エンターテインメント 11.6	保険 9.6	調査・コンサルタント 10.5	農業・林業・鉱業
11 電子・電機 ⑩	8.7	マスコミ 11.0	運輸・倉庫 9.0	通信関連 9.9	自動車・輸送用機器 8.6
12 保険 ⑬	8.6	水産・食品 10.4	商社（専門）	医薬品・医療関連・化粧品 8.3	精密機器・医療用機器
13 医薬品・医療関連・化粧品 ⑪	8.2	信販・クレジット・ファイナンス 9.8	ホテル・旅行	官公庁・団体 7.2	調査・コンサルタント 7.9
14 エネルギー ⑮	8.1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 9.1	人材サービス・人材紹介・人材派遣	エネルギー	通信関連
15 商社（総合） ⑥	8.0	証券・投信・投資顧問	教育 8.5	銀行 6.6	機械・プラントエンジニアリング 6.4

※○の中の数字は前年同期調査の全体順位

3. インターンシップ等の参加状況

2 月調査時点でのインターンシップやオープン・カンパニー等のプログラムへの参加状況を見てみよう。

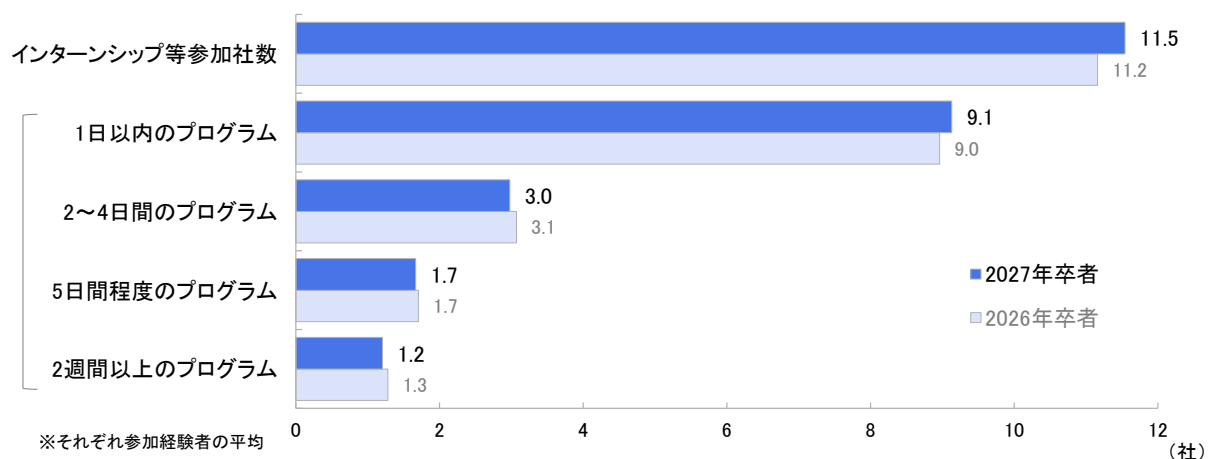
プログラムの日数によらず、参加経験がある学生はモニター全体の 95.1%で、前年同期を 2.4 ポイント上回った。学生の大多数が何らかのプログラムに参加経験があることがわかる。

参加社数の平均は 11.5 社と、社数もわずかながら増加した。プログラム日数別の参加社数はほぼ前年並みで、1 日以内のプログラムが主流だ。

< インターンシップ等経験率 >

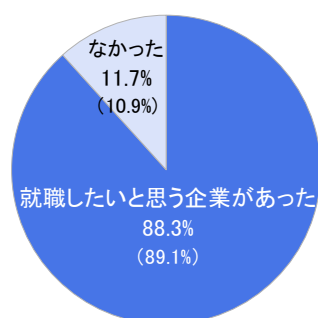
	全 体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
インターンシップ等に参加した	95.1	92.7	93.4	95.7	95.6	97.4
1 日以内のプログラム	91.1	88.5	89.3	94.6	84.2	94.2
2～4 日間のプログラム	62.2	56.3	66.5	57.4	60.1	67.5
5 日間程度のプログラム	41.1	31.5	36.0	34.8	61.6	45.5
2 週間以上のプログラム	9.3	7.4	4.1	6.7	20.2	15.6

< プログラム日数別参加社数 >



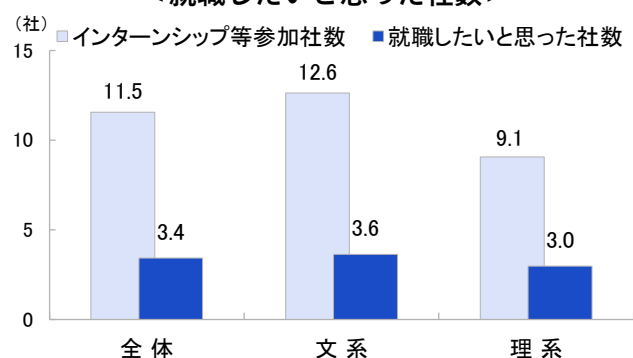
プログラムに参加した中で、就職したいと思う企業が「あった」と回答した学生は約 9 割（88.3%）。平均参加社数 11.5 社に対し、就職したいと思う企業は 3.4 社で、参加企業の約 3 割（29.5%）に相当する。この割合に文理による大きな差はないが、理系の方がやや高い（文系 28.6%、理系 33.0%）。

< インターンシップ等参加企業への就職意向 >



※（ ）内は前年同期調査の数値

< 就職したいと思った社数 >



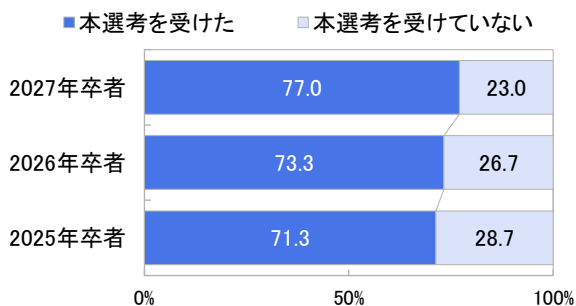
※「就職したいと思う企業はなかった」(0社)を含めた平均社数

4. 2 月 1 日時点の本選考受験状況と内定状況

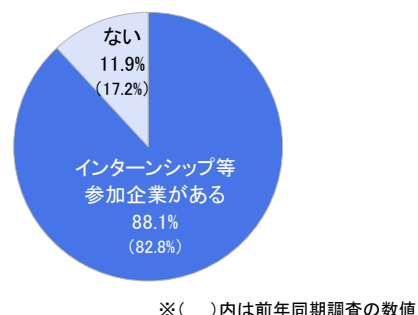
2月1日時点の本選考（採用選考）の受験状況を尋ねた。筆記試験、面接など「本選考を受けた」という回答が77.0%で、前年同期調査を3.7ポイント上回った。本選考受験経験者を分母とした受験社数の平均は5.3社で、前年（4.2社）より1社多い。

また、本選考受験者の9割近く（88.1%）が、受験企業の中にインターンシップ等のプログラムに参加した企業があると答えた。

<2月1日現在の本選考の受験有無>



<うち、インターンシップ等参加企業の有無>



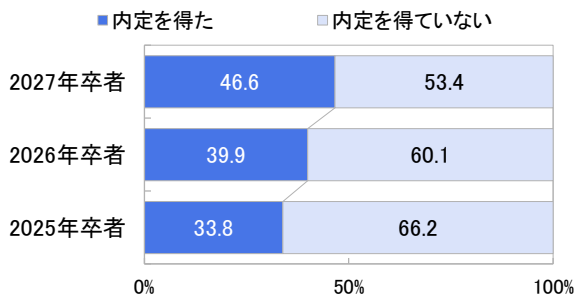
※()内は前年同期調査の数値

	全 体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
本選考を受けた	77.0%	73.3%	74.6%	76.5%	78.3%	83.1%
選考受験社数(平均)	5.3社	4.2社	6.2社	5.2社	4.3社	4.5社
うち、インターンシップ等参加社数(平均)	2.8社	2.4社	3.1社	2.8社	2.7社	2.6社

内定状況については、「内定を得た」との回答が全体の46.6%。先月調査（34.6%、1月調査）からの1カ月間に12ポイント上昇し、4割を超えた。前年同期実績（39.9%）を6.7ポイント上回っており、早期化の進捗が顕著に表れている。前年の3月調査の内定率（47.7%）に近い水準であることから、約1カ月前倒しで進んでいるとの見方もできる。

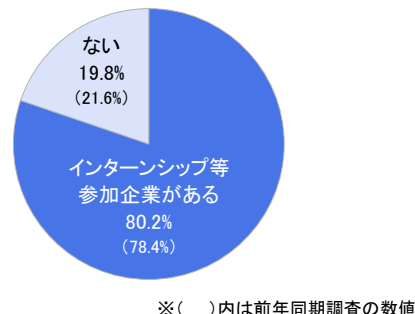
本選考の経験率に文理差はほとんどないが、内定率については差が目立ち、理系は男女とも5割に達している。

<2月1日現在の内定の有無>



*「内定」には、内々定を含む

<うち、インターンシップ等参加企業の有無>

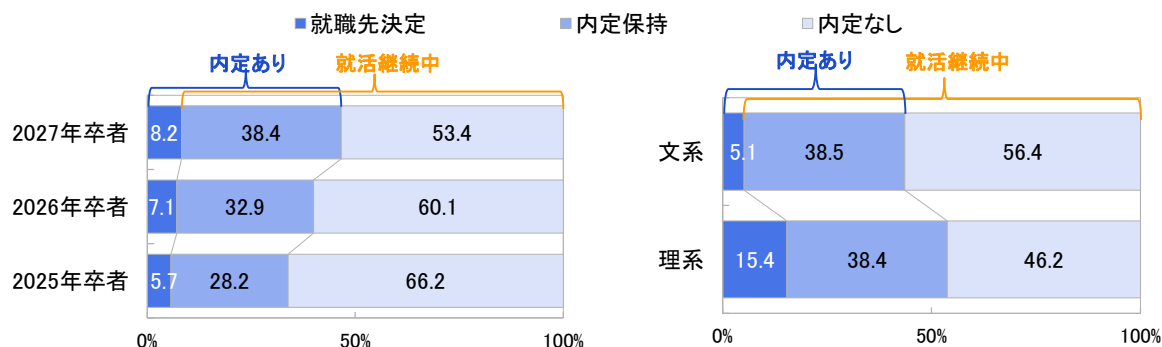


※()内は前年同期調査の数値

	全 体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定を得た	46.6%	39.9%	43.7%	43.5%	51.2%	57.1%
内定社数(平均)	1.7社	1.6社	1.8社	1.8社	1.7社	1.5社
うち、インターンシップ等参加社数(平均)	1.3社	1.2社	1.2社	1.3社	1.5社	1.1社

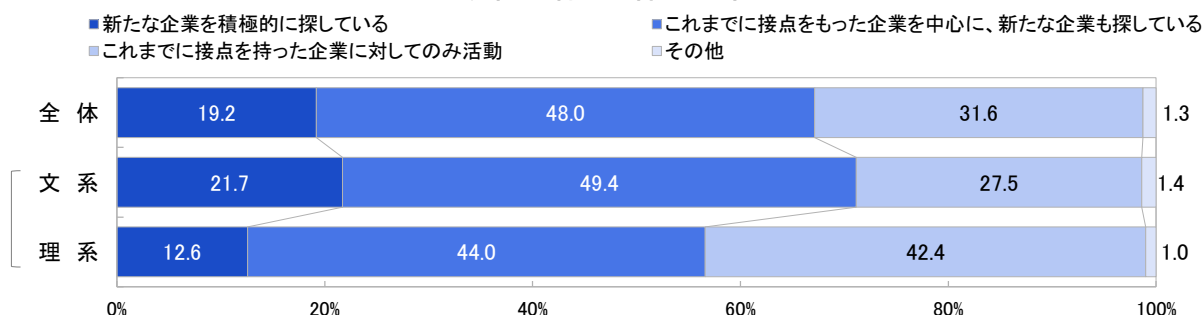
内定率は非常に高水準であるが、内定取得学生の多くは内定を保持しながら就職活動を継続している。調査時点で活動を終了した学生（就職先決定）はモニター全体の 8.2%。文理差が見られ、継続者は文系で 94.9%、理系は 84.6%。

<活動状況の分布>

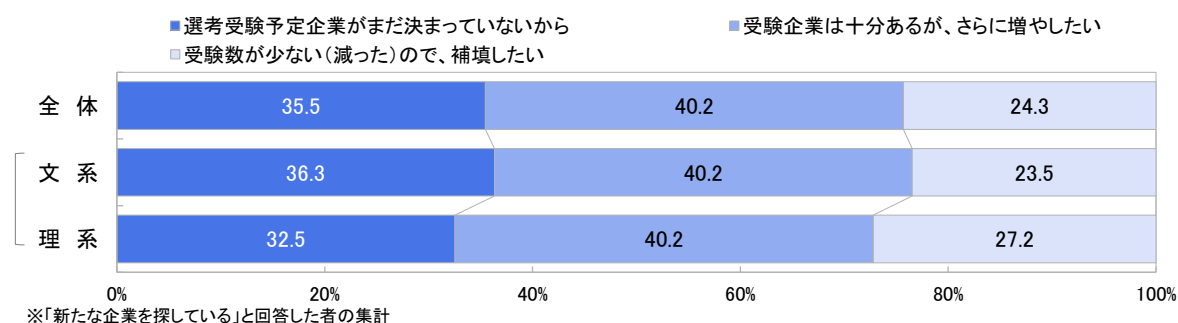


就職活動中の学生（モニター全体の91.8%）に現在の活動内容・方針を尋ねた。最も多いのは「これまでに接点をもった企業を中心に、新たな企業も探している」という回答で、約半数（48.0%）。ここに「新たな企業を積極的に探している」（19.2%）を合わせた7割近くが、企業を探している状態だ（計 67.2%）。その理由を尋ねると、「受験企業は十分あるが、さらに増やしたい」が4割で最も多く（40.2%）、「少ない（減った）ので補填したい」が2割強（24.3%）。内定獲得に向け受験企業を増やしたいとの意向がうかがえる。

<現在の活動内容・方針>



<現在新たな企業を探している理由>



■新たな企業を探している背景など

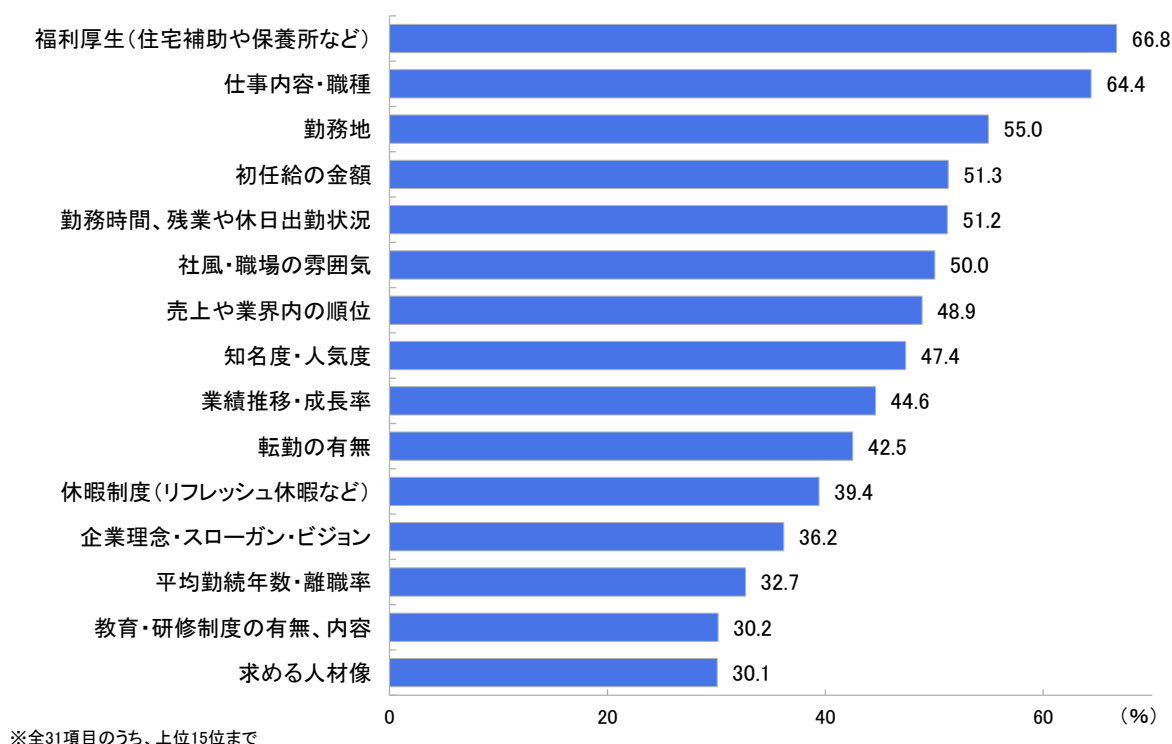
- 早期本選考が進んでいた企業にすべて落ちてしまい、手持ちがゼロの状態。 <文系男子>
- 自分がやりたいことは何となくあるが、それを実現でき、尚且つその他の理想の条件とも合致するような企業を探すのが難しい。 <文系女子>
- 自己分析をある程度進めたつもりなのですが、途中で考え方が変わったり、再度取り組むと違う結果で戸惑ったりすることがあるため、これからも時間をかけて就職活動をしていきたいと思います。 <文系男子>

5. 就職先候補として判断するために知りたい情報

就職先の候補として興味が持てるかを判断するために、企業のどんな情報を知りたいか尋ねた。あてはまるものをすべて選んでもらったところ、最も多いのは「福利厚生」（66.8%）。次に「仕事内容・職種」（64.4%）が続き、ともに6割を超える。「勤務地」（55.0%）、「初任給の金額」（51.3%）、「勤務時間、残業や休日出勤状況」（51.2%）、「社風・職場の雰囲気」（50.0%）まで半数以上が選んでおり、多くの学生が求める情報と言える。

文理男女別に見ると、全体的に女子が男子よりもポイントが高い傾向にあり、様々な情報を得た上で判断したいと考えていることが読み取れる。文理ともに男子が女子を大きく上回った項目は、「知名度・人気度」。男子は人気企業や大企業へのチャレンジ意欲が比較的強いようだ。

<就職先の候補として興味が持てるかを判断するために知りたい情報>



	(%)			
	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
福利厚生（住宅補助や保養所など）	57.9	75.8	58.6	74.0
仕事内容・職種	57.4	71.5	62.1	64.9
勤務地	45.2	66.8	41.9	63.0
初任給の金額	42.1	57.2	48.3	61.7
勤務時間、残業や休日出勤状況	44.7	61.9	39.9	51.9
社風・職場の雰囲気	41.1	59.4	41.4	57.1
売上や業界内の順位	49.2	46.9	46.8	56.5
知名度・人気度	52.8	41.3	51.7	45.5
業績推移・成長率	41.6	45.3	47.8	46.1
転勤の有無	34.0	54.0	30.5	46.8
休暇制度（リフレッシュ休暇など）	37.6	47.5	28.6	35.1
企業理念・スローガン・ビジョン	27.9	48.4	24.6	37.0
平均勤続年数・離職率	29.4	38.8	25.1	33.1
教育・研修制度の有無、内容	24.4	35.7	24.6	36.4
求める人材像	25.4	36.3	23.2	33.1

6. 働き方についての考え

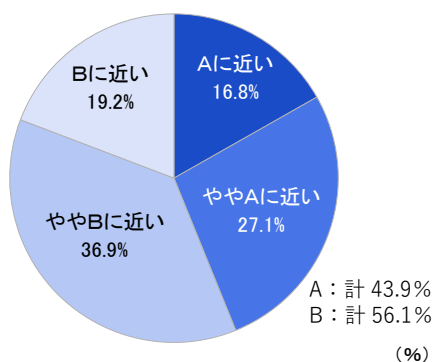
働き方に関する指標について対照的な項目を示し、現時点での希望に近い方を選んでもらった。

まず、「1つの分野で専門性を高めたい」と考える学生は合わせて43.9%で、「幅広い業務を経験したい」（計56.1%）という学生の方が多い。但し、理系男子においては逆転している。出世意欲については「仕事が多少忙しくても早く出世したい」が4割強で（計43.5%）、「出世するより自分のペースで仕事がしたい」（計56.5%）が13ポイント上回る。この傾向は女子に顕著で、男子以上にワークライフバランスを意識しているようだ。

また、「人よりも能力やセンスを評価されたい」（計59.4%）が「まわりから浮かないようにしたい」（計40.6%）を20ポイント近く上回っており、就職後は自らの能力を遺憾なく発揮し、それが正当に評価されることを望む学生が多い。転勤意向については、「転勤したい」は2割台にとどまる（計22.3%）。

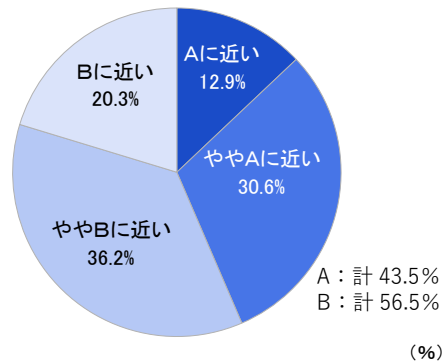
<働き方についての考え>

A：1つの分野で専門性を高めたい
B：幅広い業務を経験したい(ジョブローテーション)



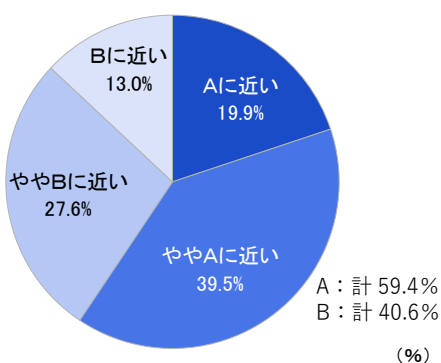
	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
Aに近い	20.3	14.1	19.2	12.3
ややAに近い	23.4	23.3	38.9	31.8
ややBに近い	33.0	42.6	29.1	40.9
Bに近い	23.4	20.0	12.8	14.9

A：仕事が多少忙しくても早く出世したい
B：出世するより自分のペースで仕事がしたい



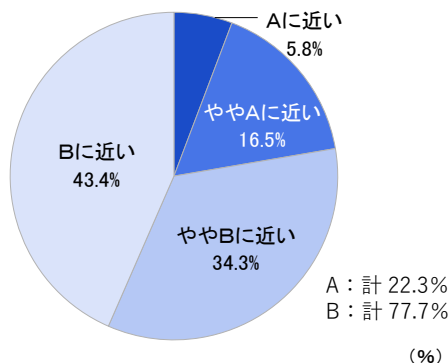
	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
Aに近い	16.8	8.1	21.2	6.5
ややAに近い	36.0	26.5	31.5	27.3
ややBに近い	36.5	34.1	34.0	44.2
Bに近い	10.7	31.4	13.3	22.1

A：人よりも能力やセンスを評価されたい
B：まわりから浮かないようにしたい



	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
Aに近い	23.9	17.0	19.2	18.8
ややAに近い	36.0	41.3	44.3	37.0
ややBに近い	27.4	25.8	27.1	33.8
Bに近い	12.7	15.9	9.4	10.4

A：転勤したい
B：転勤したくない(1つの拠点にずっといたい)



	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
Aに近い	7.6	4.5	7.4	2.6
ややAに近い	19.3	15.5	15.3	14.3
ややBに近い	36.0	29.8	37.9	37.7
Bに近い	37.1	50.2	39.4	45.5

※構成比の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合がある

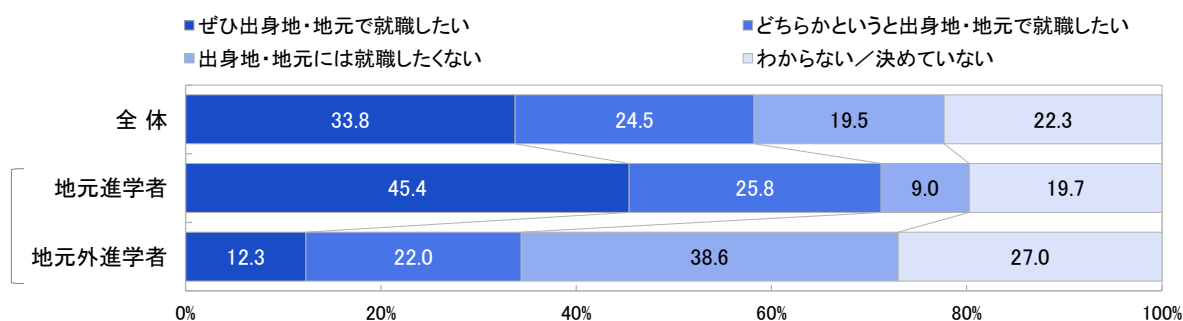
7. 地元就職の希望状況

出身地・地元での就職活動について尋ね、地元の大学に通う学生（＝地元進学者）と、地元を離れて進学している学生（＝地元外進学者）とに分けて集計した。

「ぜひ出身地・地元で就職したい」「どちらかというと出身地・地元で就職したい」を合わせた地元就職希望の割合は、地元進学者で7割を超える（計71.2%）。地元外進学者では3割台（計34.3%）にとどまり、対照的。

出身地別に見ると、「ぜひ出身地・地元で就職したい」が一番高いのは関東出身者で4割近い(39.8%)。

< 地元就職希望状況 >

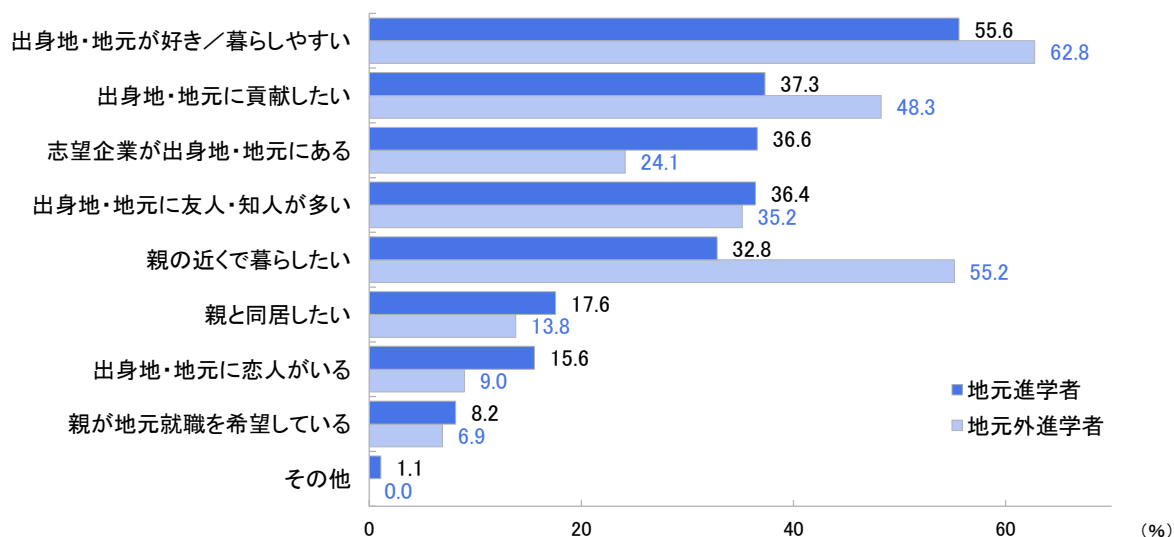


< 地元就職希望状況（出身地別） >

	（％）						
	北海道出身	東北出身	関東出身	中部出身	関西出身	中国・四国出身	九州・沖縄出身
ぜひ出身地・地元で就職したい	18.9	26.5	39.8	30.3	29.4	32.8	21.5
どちらかというと出身地・地元で就職したい	29.7	22.4	25.5	25.5	24.5	14.9	21.5
出身地・地元には就職したくない	21.6	28.6	14.9	19.1	21.6	31.3	30.8
わからない／決めていない	29.7	22.4	19.8	25.0	24.5	20.9	26.2

地元就職をしたい理由を見ると、地元進学者、地元外進学者ともに「出身地・地元が好き／暮らしやすい」が最も多く、地元進学者の55.6%、地元外進学者の62.8%が選んだ。地元外進学者は「親の近くで暮らしたい」「出身地・地元に貢献したい」が地元進学者より多く、地元進学者は「志望企業が出身地・地元にある」が比較的多い。

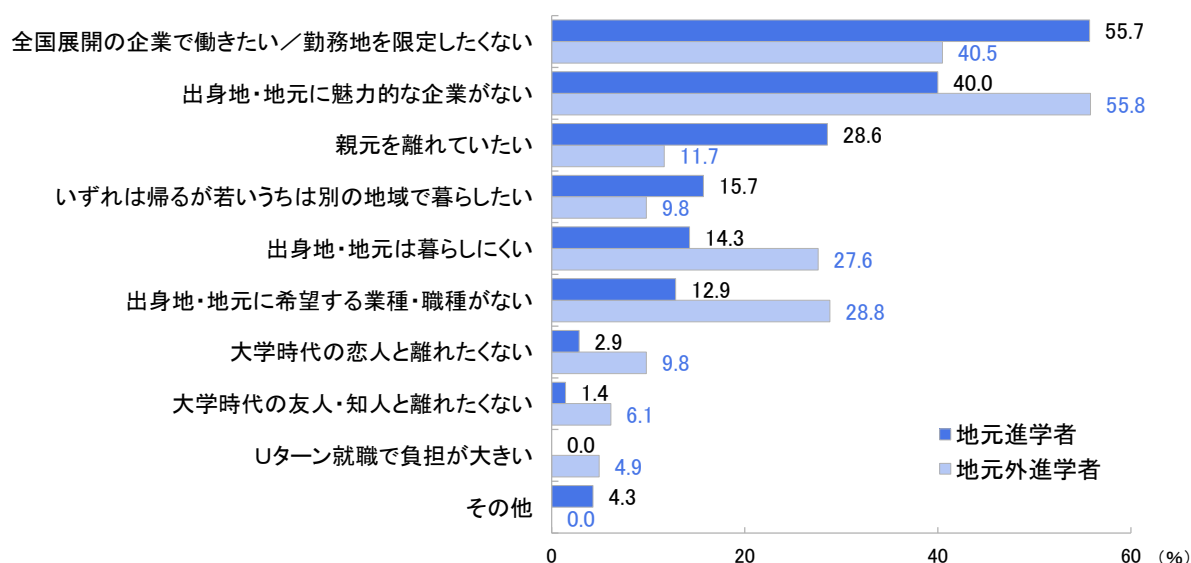
< 地元就職をしたい理由 >



一方、地元就職をしたくないと理由を見ると、地元進学者は「全国展開の企業で働きたい／勤務地を限定したくない」が最も多い（55.7%）。「出身地・地元の魅力的な企業がない」（40.0%）が続く、やりたい仕事を求めて地元を離れようとする学生も少なくないことがうかがえる。

地元外進学者では「出身地・地元の魅力的な企業がない」が最多（55.8%）。離れて暮らしていることで、地元企業の情報を入手しづらいことも影響しているだろう。「全国展開の企業で働きたい／勤務地を限定したくない」（40.5%）、「出身地・地元希望する業種・職種がない」（28.8%）、「出身地・地元は暮らしにくい」（27.6%）などが続く。

<地元就職をしたくない理由>



■地元就職したい理由

- 現在の人間関係を保ったまま就職をしたいからです。 <地元進学／文系女子>
- 社会人生活が始まり、ガラッと環境が変わるタイミングで一人暮らしも開始すると負担が大きすぎると感じるから。 <地元進学／理系女子>
- 地元の市場規模が大きいため、特段仕事で不利になるとは思わないから。 <地元進学／文系男子>
- 県外に進学してみて、改めて地元の魅力を実感できたから。地域貢献していくにあたって、やはり自分が育った地元に対して恩返しがしたいと考えたから。 <地元外進学／文系男子>
- 最初は給料も低いので実家で貯蓄したい。 <地元外進学／文系女子>
- 地元の環境が一番合っていて、自分に合う環境で働いた方が成果も出ると思う。 <地元外進学／理系女子>
- インフラを志望する上で、馴染みの街を守ることは大きなやりがいだから。 <地元外進学／理系男子>

■地元就職したくない理由

- 志望する企業の拠点がいないから。 <地元進学／理系男子>
- 都会での生活に慣れており、経験のためにも地元を出たいから。 <地元進学／文系女子>
- 車で生活するより、公共交通機関で生活をしたいから。 <地元進学／文系女子>
- 地元がかなり田舎で、そもそも会社の数が少ない。また、都会の会社の方が労働環境や成長環境が整っていると感じたため。 <地元外進学／理系男子>
- 地元は東京と比べて利便性や情報量が劣り、色々なことに挑戦しにくいと思うので、とりあえず若い時は地元では働きたくない。 <地元外進学／理系女子>
- まずは首都圏で就職をして若いうちにたくさんのことを学びたい。 <地元外進学／文系男子>